

PDCAチェックシート

実施年度	令和 6 年度				
事務事業名	IoTを活用した牡蠣養殖による東かがわ市水産業持続的発展事業	担当課名	戦略情報課		
【Plan】計画		【Do】実施・実行	【Check】点検・評価	【Action】処置・改善	
■目的 世界で初めてハマチ養殖の事業化に成功した「ハマチ養殖発祥の地」安戸池で、データ連携を活用したスマート水産業「牡蠣養殖」の試験養殖を実施。獲得したノウハウを市内漁業者に共有することに加え、水産物の加工や販売を支援する。それらを通して、漁業者の所得向上、年齢のバランスのとれた漁業就業構造、そして環境負荷の軽減を達成し、より持続可能な水産業を目指す。 ■成果指標(アウトカム・KPI) ※ 【目標値】 ①水産デジタル人材の育成：7名 ②水産事業者のサービス利用における満足度：3.2ポイント ③スマート牡蠣養殖に取り組む漁業者の所得向上：5% 【達成値(R6実績値)】 ①水産デジタル人材の育成：7名 ②水産事業者のサービス利用における満足度：4.5ポイント ③スマート牡蠣養殖に取り組む漁業者の所得向上：31%		■具体的取組 夏場の成育データを取得し、1年を通して養殖及び出荷が可能であることを確認。生食用牡蠣の取扱い及び販売に必要な検査の実施並びに設備を整備し、生食用牡蠣の販売を開始した。 ■インプット(投入金額等) 事業費等 ○会計年度任用職員給料（報酬）等 4,074千円 ○旅費 250千円 ○委託料 9,969千円 ○その他 6千円 ■アウトプット(数量等) 実施回数等 ①スマート牡蠣養殖アプリの利用者数：7名 ②牡蠣成品の歩留率：65% ③スマート牡蠣養殖の展開エリアの拡大：2箇所		■成果指標の具体的検証結果 (インプット・アウトプットに対するアウトカムの達成状況はどうか、また、達成できていない場合の原因は何なのか等の検証結果を具体的に記載) 牡蠣の生産面では、株式会社ソルトレイクひけたの社員及び引田漁業協同組合の職員が中心となり、デジタルを活用し、養殖技術を磨き上げることができた。販売面では、地域プロジェクトマネージャーが中心となり、マーケティング戦略を策定。販売・出荷体制についても整備し、生食用牡蠣の販売を開始することができた。	■検証結果を受けての具体的対応 令和7年度は、生産量の拡大や販売力強化の支援に取り組み、概ね3年間で、事業性を確立し、その後の展開につなげることを目指す。 ■評価 現状維持

※KPI…重要業績評価指標。Key Performance Indicatorの略。アウトカムの達成度を具体的に示す指標(数値)をいう。